

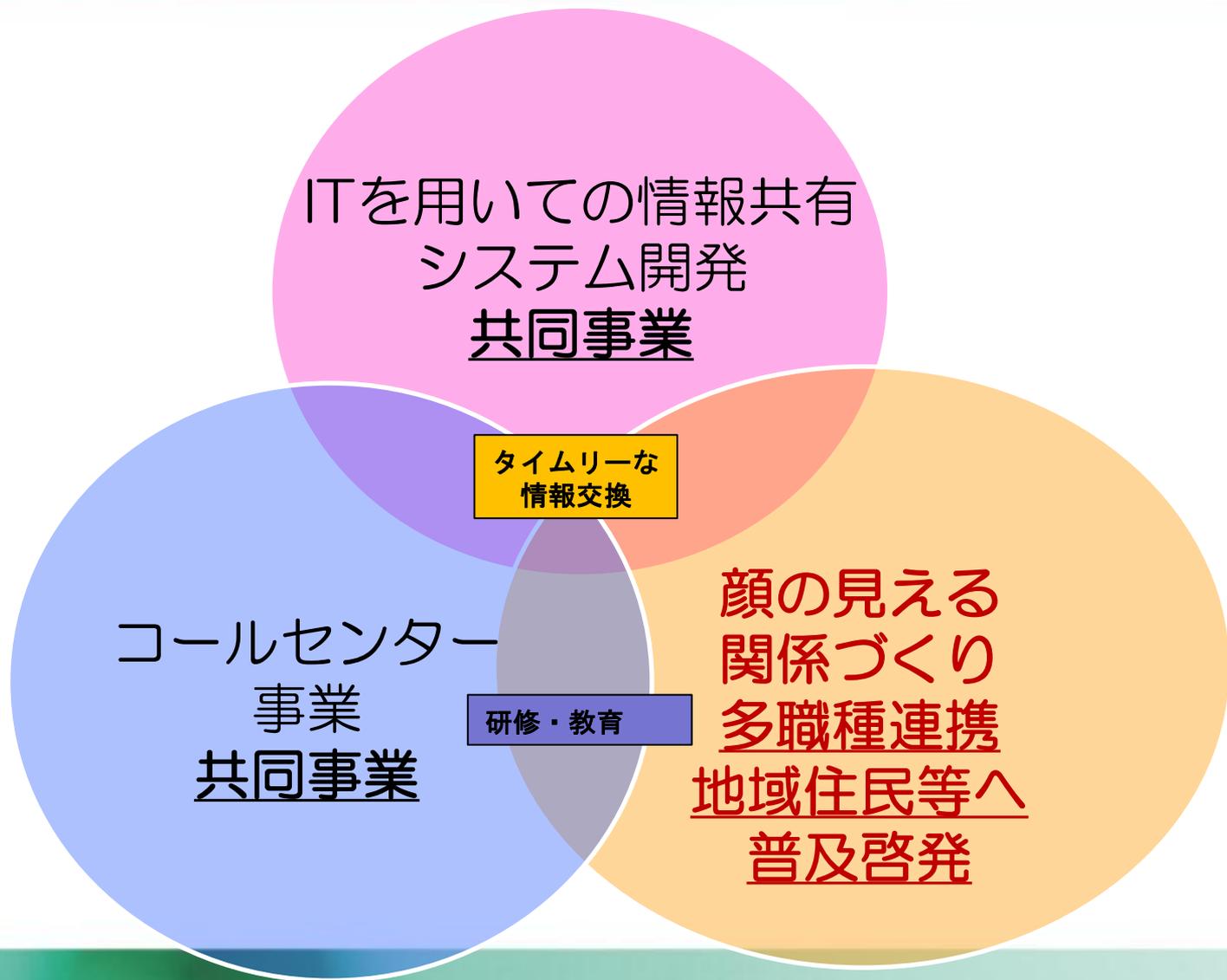


P R E S E N T A T I O N

平成24年度在宅医療連携拠点事業
「顔の見える関係づくり」活動報告

(株)在宅ケアセンターひなたぼっこ
訪問看護ステーションひなたぼっこ

「在宅ケアセンターひなたぼっこ」における 在宅医療連携拠点事業の主な取り組み



「顔の見える関係づくり」活動計画

1. 連携促進業務

2. アウトリーチ活動

3. 企画・運営・支援業務

1. 連携促進業務の活動内容

- 1) 勉強会の企画・参加
- 2) 地域包括支援センターや他事業との協働のもと、様々な会への参加
- 3) 他事業所などの訪問・見学

連携促進業務の活動結果

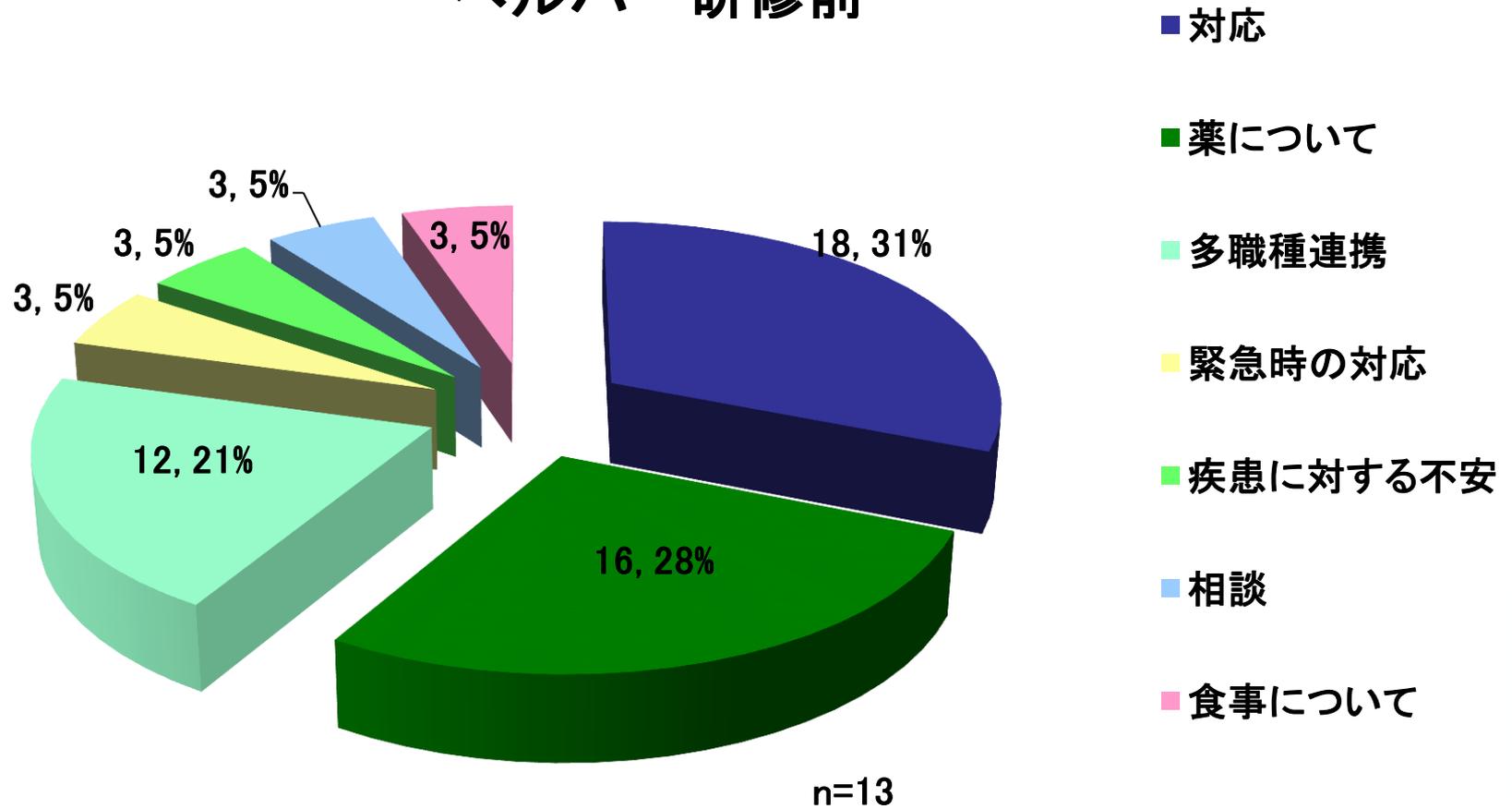
(1) 顔見知りの関係の構築ができた

- ◆これまで接点のなかった地域包括支援センターや訪問介護事業所から相談依頼が来るようになった
- ◆地域のヘルパー交流会で、事業紹介や介護職の不安に感じていることや知りたい情報のアンケート調査を実施することができた

(2) 新たに知り得た情報を相談業務に生かすことができた

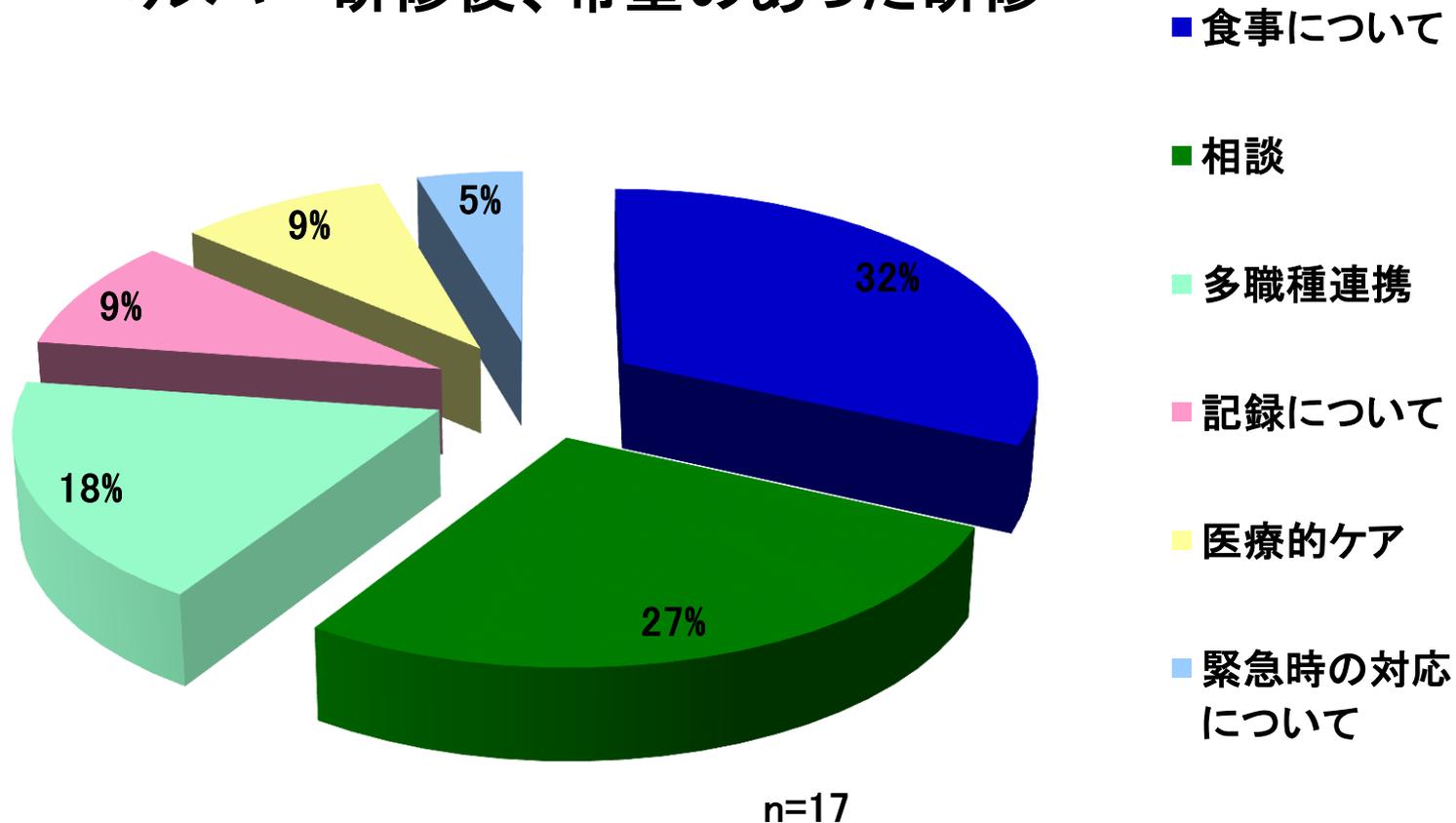
介護職員の不安に対するアンケート結果

ヘルパー研修前



介護職員の不安に対するアンケート結果

ヘルパー研修後、希望のあった研修



2. アウトリーチ活動

- 1) 地域住民や多職種との交流
- 2) 医療依存度の高い方の退院支援
- 3) 在宅での療養支援
- 4) 医療・福祉・介護のパイプ的役割

アウトリーチ活動の結果

(1) 地域ケアネットや地域ケア会議への参加・講師の依頼

- ◆地域の困難事例や問題について、医療福祉関係者に加え、民生委員や消防・警察・保健所などの多職種が集まり、意見交換ができるようになった。
- ◆訪問看護からの視点による「在宅での看取り」について講師を務め、地域住民を含め、多職種間において看とりについて考える機会を得ることができた。また、ネットワークの広がりのきっかけとなった。

(2) 退院前から在宅療養を見据えた相談、関わりができた

- ◆訪問看護の経験を生かし、退院前から療養環境の調整や受診、緊急時の体制など、病院スタッフや担当保健師、家族との連絡調整ができ、安定して在宅療養へ移行できた。

(3) 別事業所の相談員の医療的面での計画相談のサポートができた



医療依存度の高い療養者支援
のための多職種との勉強会



写真を使用するに当たり了承を得ております

3. 企画・運営・支援業務

1) 介護職やその他多職種に向けての勉強会の企画・運営

- (1) ヘルパー調理実習の実施
- (2) 低栄養についての学習会の実施

2) 地域住民を含めてのセミナーの開催

企画・運営・支援業務の結果

(1) ヘルパー調理実習

◆地域のヘルパー交流会で実施したアンケートに基づき、愛媛県栄養士会や地域の病院の協力を得、ヘルパー調理実習(全6回)を企画・実施。

訪問介護事業所からの感想

- 事業所内での勉強会で希望が多かったが、どのように企画実施すれば良いのか分からず保留になっていたので役立った。
- 今まで、言われるまま食材を購入していたが、少しの知識を得ただけで、食材を選ぶ時に役立っている。
- ステーキ風、お餅風など、食べれないと諦めていた方に、少しの工夫で食べれるという喜びを感じてもらえた。
- 他事業所との交流の場になった。
- 現場で困っている事について、直接管理栄養士に相談することができ助かった。

ヘルパー調理 実習

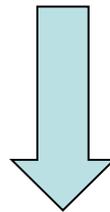
H24.7月～12月まで
地域の集会所で開催



企画・運営・支援業務の結果

(2) 低栄養についての学習会の実施

- ◆松山市地域包括支援センター一部会や市内の訪問介護・居宅介護支援事業所に声掛けし、低栄養についての及び医療職でなくともチェックできるMNAスクリーニング®の講義を、ネスレ日本株式会社ネスレヘルスサイエンスカンパニーの協力を得て2度実施。



- 講義を受けた事業所より相談があり、実際に同行訪問し、MNAチェックを継続して行うこととなった。
- 実施により利用者の栄養に対する意識が変わり、積極的に食事や自己の体について考え取り組むきっかけとなった。

企画・運営・支援業務の結果

(3) 聴覚障害者理解への学習会

- ◆愛媛県視聴覚センターとの協働で、松山市地域包括支援センター一部会や市内の訪問介護・居宅介護支援事業所に声掛け。障害手帳を所持していない難聴高齢者も含めて、災害時支援対策を考えていく上で、第1回目として聞こえない事への理解を得るための勉強会を実施。

研修後アンケートより

- 自分が聞こえない体験をすることで、聞こえない事の気持ちや接し方が分かった。
- 聴覚障害にも様々なタイプがあり、手話や筆談だけでは対応できないことが分かった。もっと勉強したい。
- もっといろいろな事を知って、事業所の中で難聴高齢者と接するときにも気を付けて接していきたい。

企画・運営・支援業務の結果

(4) 地域一般住民に対する講演会

日時：平成25年1月13日（日）

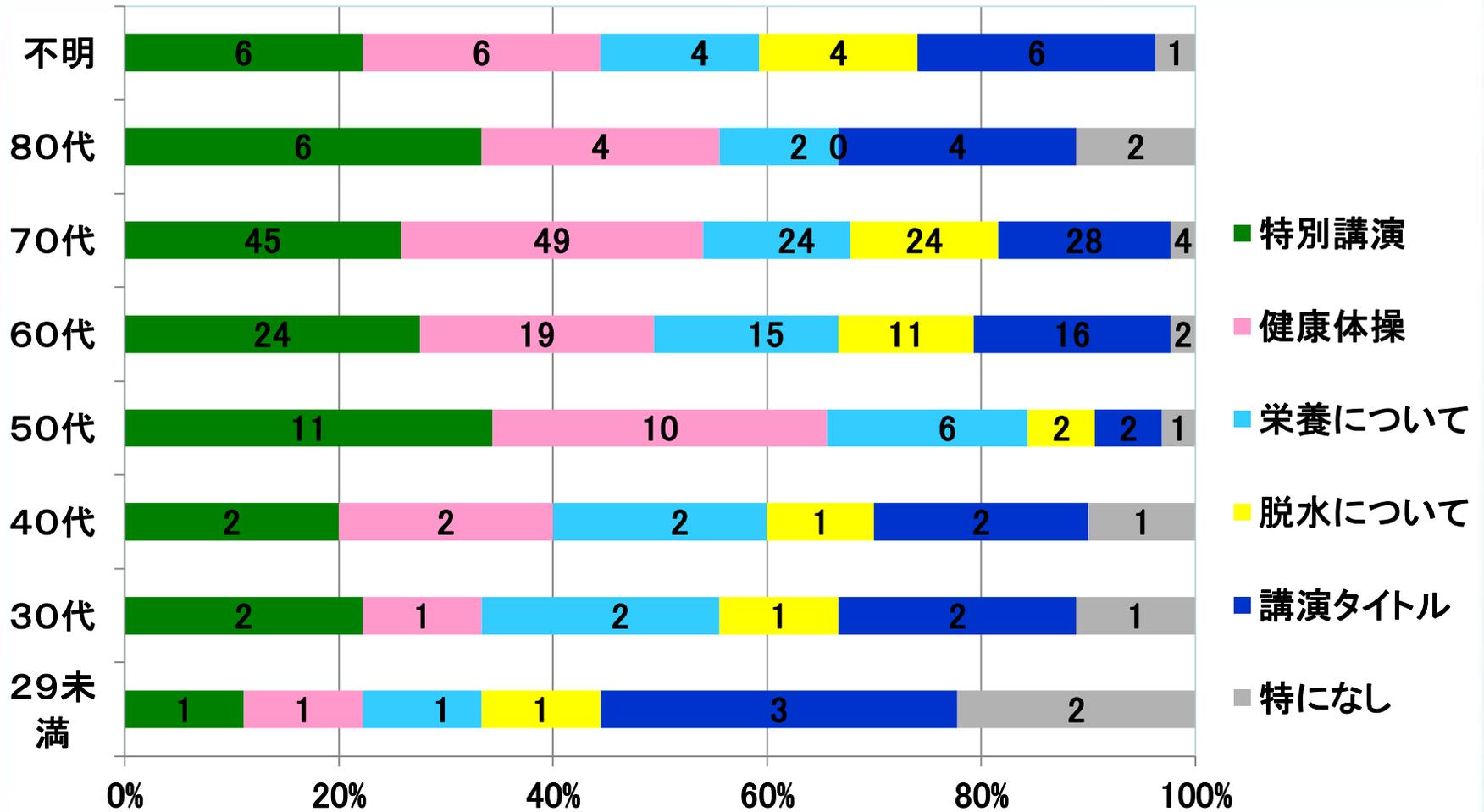
ひめぎんホール サブホールで開催

◆講演会「楽しい老後を過ごすために」
特別講演：「元気で長生きするための秘訣」
愛媛大学大学院医学系研究科 加齢制御内科学
教授 三木哲郎先生

- 体に良い健康づくり
- シルバー世代の栄養について
- 高齢者の低栄養について
- 冬のおける隠れ脱水について

参加者：206名

年代別参加者の興味を持った内容



n= 206

講演会風景

